災害に備えて

災害はいつ起きるかわかりません。子どもを守るためにも、普段から災害に備えておきましょう。

避難の流れの確認(地震発生時等)

在宅避難等

自宅建物に倒壊などの危険がなく、住み続けられる状態であれば、在宅避難を検討。(安全な親戚宅や友人宅等も避難先として検討してください。)

いっとき避難場所

一時的に身の安全を確保する場所。避難の必要があるときは、町内会など地域で取り決めている「いっとき避難場所」にまずは向かいましょう。(状況に応じ、広域避難場所に直接避難することも検討してください。)

地域防災拠点

自宅で生活できない人が避難生活を送る場所。市内で1か所でも震度5強以上の地震を観測した場合に開設。

最低限の食料や水の備蓄、資機材を整備する とともに、避難情報・被害情報を集約。

倒壊等により自宅 で生活ができない^く 場合

備蓄品の分配

や情報提供を

受ける場合

周辺に火災が広

がっている場合

周辺に火災 が広がって いる場合

広域避難場所

火災が拡大した場合に、熱や煙から一時的に避難する場所。瀬谷区内には2か所あります。

- ○旧上瀬谷通信施設一帯
- ○下瀬谷入口一帯耕地

瀬谷区区民生活・防災マップ/ハザードマップの確認

自宅周辺の災害の危険性や避難場所を確認しておきましょう。

Q▼瀬谷区区民生活・防災マップ

検索

Q▼横浜市 ハザードマップ

検索

情報収集手段の確認

【横浜市防災情報Eメール】

事前登録することで、地震震度情報、気象警報・注意報等を始めとする防災情報がEメールで配信されます。

(Q▼横浜市防災情報Eメール

検索

【横浜市避難ナビ】

アプリをインストールすることで、マイ・タイムラインの作成から避難所検索、災害時の避難情報の受信などができます。 **ロアアルシロ**

Q ▼横浜市避難ナビ

検索

日用品等の備蓄

小さな子どものいる家庭では、大人のものだけでなく、子どもの日用品も準備をしておく必要があります。 最低でも3日間過ごすために必要なものを準備しましょう。 優先的に持ち出すものは、子どもを抱っこしたうえで運べる重さで、非常用持ち出し袋として準備しておきましょう。



◎備蓄の例

子どもの日用品 ※一例です。アレルギーがある場合は、食べ物などもアレルギーに対応したものを準備しておきましょう。

- □紙おむつとビニール袋(捨てる用)……おむつが外れていても下着を汚さないために使えるのであれば便利。
- □ミルク(液体ミルク等)&プラスチック哺乳瓶……ショックで母乳の出が悪くなることも。最低3日分は用意しましょう。
- □着替え……最低2、3組は用意しましょう。
- □**おやつ**……子どもがどうしてもお腹が空いたときなどにあると良いでしょう。お菓子を食べることで心が落ち着くこともあります。
- □消毒剤……哺乳瓶などを消毒するのに必要。水に溶かして使えるタブレットタイプがおすすめ。
- □**おもちゃ**……子どもの気持ちを落ち着かせるために用意しておくと良いでしょう。あまりかさばらず、音の出ないものを準備しましょう。
- □抱っこひも……避難にベビーカーは危険になる場合があります。抱っこひもを準備しておくと便利です。
- □離乳食……レトルトのものやお湯を入れる量によっておかゆのようになる便利な非常食もあります。
- □**お尻ふき**……断水時には体や手を拭くのにも使えます。(多めに)
- □水筒……保温できる軽めのステンレスボトルがおすすめです。
- □**バスタオル**……寒い季節に災害にあったときには防寒が重要です。子どもをくるめるバスタオルなどがあると便利です。
- □スプーン……離乳食があっても、食べさせるためのスプーンがないと不便です。
- □母子健康手帳のコピー······出産時の記録、予防接種のページのコピーは緊急時の医師の診察などで重宝します。

一般的な偏え

※一例です。その他、ご自分で必要なものを準備しましょう。

□食料 □飲料水 □懐中電灯 □携帯ラジオ □タオル □ティッシュ □ビニール袋 □着替え □軍手 □生理用品 □トイレパック □救急セット □常備薬 □マスク □手指消毒液(携帯用) □体温計 □モバイルバッテリー

